

## 明倫短期大学学会報告

第27回 (通算第110回) : 2007年6月28日 (木)

(座長: 平澤明美)

### 就職に関する実態調査 (卒業後一年間の現状)

中澤孝敏 (歯科技工士学科)

平成18年に日本歯科技工士会が行なった実態調査などでも明らかなように、歯科技工士の「低賃金・長時間労働」は年々深刻な問題となっている。そこで平成18年3月卒業8回生を対象に就職状況の実態についてアンケート調査を行なった。その結果、職場に満足していると解答した者が約半数であり、低賃金等労働条件の悪さや、既に約3割もの卒業生が職場を変えているということが判った。この様な現状を踏まえて、本学としても速やかに対策を検討する必要がある。

### 人工内耳装用者のことばのききとり

大平芳則 (専攻科保健言語聴覚学専攻)

聴覚障害の部位別分類 (伝音難聴と感音難聴) とその特徴について言及するとともに、人工内耳の仕組みと適応を紹介した。また、人工内耳によることばの聞き取りは、一般的傾向として接近音や破擦音が良好で、弾き音、破裂音、鼻音は不良であることを例示した。ただし、同じ破裂音でも/k/聞き取りは極めて良好だが、/t/は/k/に異聴されることが非常に多かった。その理由は不明である。さらに、視覚と聴覚の補完現象について、具体的な例を呈示し説明した。

第28回 (通算第111回) : 2007年7月26日 (木)

(座長: 藤口 武)

### 文部科学省特色GP選定取組 「高齢社会に対応した歯科衛生士の育成」 平成17~18年度補助事業報告

金子 潤 (歯科衛生士学科)

平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された本学歯科衛生士学科の取組「高齢社会に対応した歯科衛生士の育成 - 歯科口腔介護教育のカリキュラムへの導入 -」は、平成19年3月末をもって2年間におよぶ補助事業が終了した。本補助事業期間中に本学における歯科口腔介護教育をさらに充実・発展させることができた。また、平成17年度的全

国7都市における「特色GPフォーラム」や、平成18年度の「歯科口腔介護教育フォーラム2006」を通して、本学の歯科口腔介護教育を全国の歯科衛生士養成機関に公表・普及させることができた。

### 地域新生コンソーシアム研究事業 「3次元編み技術による骨・皮膚・口腔 再生医療のための新基材開発」の紹介

佐野正枝 (歯科技工士学科)

根岸政明 (東伸洋行株式会社)

経済産業省が公募する本事業は、既に基礎研究の蓄積のある技術シーズや知見を活用し、産学官連携で地域における新産業、新事業の創出に貢献することが目的である。我々の研究は再生医療のための新基材開発をテーマに、研究期間は2年で研究費1億5千万円の大プロジェクトとしてH18年度に採択された。新潟大学医歯学総合病院生命科学医療センターは細胞培養と再生医療、新潟県工業技術総合研究所素材応用技術支援センターは3次元編み、東伸洋行(株)はラットやカンガルーの天然コラーゲンによる新基材作製に関する研究を開始した。再生医療という最先端技術が口腔領域では既に始まっていることを紹介した。

第29回 (通算第112回) : 2007年9月27日 (木)

(座長: 江川広子)

### 歯科衛生士教育課程における ホワイトニング実体験教育の アンケート集計結果

幸田奈美 (歯科衛生士学科)

金子 潤 (歯科衛生士学科)

近年、歯のホワイトニングに対する社会的ニーズがますます増加する傾向にある。ホワイトニングは、歯科衛生士が専門的知識を生かして主体性を持って取り組める分野と考えられることから、明倫短期大学歯科衛生士学科では平成18年1月よりホワイトニング実体験教育を導入することによって、より専門性の高い知識と技術を兼ね備えた歯科衛生士を養成する試みを行っている。平成18年度に実習を行った学生に対しアンケートを実施したところ、実体験教育を導入することは、ホワイトニングに関する基礎的知識および技術の習得と歯科衛生士の役割の理解に大変効果的である

## 明倫短期大学学会報告

ことが示唆された。より専門性の高い歯科衛生士の育成のために、本教育プログラムをさらに充実・発展させていく予定である。

### 明倫短大生の理系・情報系科目にみる 能力や意識の傾向

植木一範（歯科技工士学科）

全国的に理系離れが進み、学生の学力や興味が時代とともに変化しているようである。本学でも理系科目があるため、その科目において学生が非常に学びにくいということが多いようだ。この時代に対応する教育内容を検討することを目的として、本学学生が理系教科を学ぶ上での能力や意欲をどのように持っているのか調査したので報告した。その結果、本学学生は平均して理系科目の基礎学力、計算能力が低く、物理学、歯科理工学、情報統計論などの科目において、中学理科、数学からの復習教育が一部必要であることがわかった。また、興味の傾向として、コンピュータなどのITへの興味はみられるが、物理や自然科学系への興味は低いという傾向がみられた。

第30回（通算第113回）：2007年10月25日（木）

（座長：大平芳則）

### 患者担当制による 臨床技工実習の導入とその教育的効果

丸山 満（歯科技工士学科）

生体技工専攻の臨床技工実習は、“即戦力”となる技術レベルの習得に加え、一人の患者のすべての診療見学と、技工物製作を担当する「患者担当制」で補綴治療を理解するとともに“豊かなコミュニケーション”能力も学んでいる。さらに、症例報告によりプレゼンテーション能力の育成も目指している。本実習により歯科医療の一端を担っている意識づけや、「患者」をより深く意識した技工物の製作に取り組むことができる歯科技工士の育成が可能と思われる。

### 精神鎮静法の実際と問題

石井多恵子（附属歯科診療所歯科医師）

野崎怜美（附属歯科診療所歯科衛生士）

歯科領域では近年、インプラント埋入術や、障害者・歯科治療恐怖症の歯科治療症例数が増加している。特にインプラント症例数は飛躍的に増加し、これに比例して精神鎮静法の需要も増加した。精神鎮静法の併用は治療時の安全確保や円滑化の有効な手段の一つであると考えられる。

そこで今回、当診療所での導入を踏まえ、精神鎮静法の適応や方法を確認し、STAFFの理解、環境・体制の整備、コスト設定、実際のシステム作りについて検討した。